

授業概要

この授業では、ウィリアム・シェイクスピア(1564-1616)の作品の中から、初期の喜劇『間違いの喜劇』(The Comedy of Errors)を取り上げる。この作品は古代ローマの喜劇を下敷きにした作品である一方で、後期のロマンス劇にもつながる作品でもある。また、他ジャンルへのアダプテーションという点でも注目すべき作品である。授業では、テキストを精読していくと同時に、原作の時代背景に忠実な上演や、設定を変えた上演をはじめ、ミュージカル、狂言など、様々な上演資料なども参照しながら、作品の理解を深めていけるよう講義する。

授業計画

第1回	イントロダクション
第2回	シェイクスピアの喜劇『間違いの喜劇』第一幕①
第3回	シェイクスピアの喜劇『間違いの喜劇』第一幕②
第4回	シェイクスピアの喜劇『間違いの喜劇』第二幕①
第5回	シェイクスピアの喜劇『間違いの喜劇』第二幕②
第6回	シェイクスピアの喜劇『間違いの喜劇』第三幕①
第7回	シェイクスピアの喜劇『間違いの喜劇』第三幕②
第8回	シェイクスピアの喜劇『間違いの喜劇』第四幕①
第9回	シェイクスピアの喜劇『間違いの喜劇』第四幕②
第10回	シェイクスピアの喜劇『間違いの喜劇』第五幕①
第11回	シェイクスピアの喜劇『間違いの喜劇』第五幕②
第12回	シェイクスピアの喜劇『間違いの喜劇』全幕を振り返って
第13回	シェイクスピアの喜劇『間違いの喜劇』アダプテーション①
第14回	シェイクスピアの喜劇『間違いの喜劇』アダプテーション②
第15回	これまでのまとめとフィードバック
第16回	筆記試験

到達目標

古典文学作品の持つ可能性をさまざまな観点からより深く理解するため、以下のことを目標とする。

- ・古典作品の成立過程の歴史的背景や文化的背景を理解できる。
- ・戯曲の台詞をさまざまなコンテキストに即して読むことができる。
- ・作品が上演された時代についての知識を得ることができる。
- ・古典作品が現代において上演される際の演出可能性を理解できる。
- ・古典作品の改作が上演される際の様々なジャンルを理解できる。

履修上の注意

講義科目ではあるが、文学作品の読み方を身につけ、自分で読むという意味では、実習科目である。授業で使用するテキストは、翻訳を購入すること。また、授業中の携帯電話、スマートフォンなどの使用は厳禁とする。

予習・復習

予習として、テキストとして購入した翻訳を、丁寧に読むこと。また、復習として、授業で学んだことを活かして再読すること。またセリフは音読してみるとよい。さらに、授業で取り上げた毎回のテーマについて、自ら調べ、理解を深めるよう復習してほしい。

評価方法

予習復習の程度、授業への参加度、リアクション・ペーパー、確認テストなどを点数化し、学期末の筆記試験と合わせて、総合的に評価する。学期末試験50%、各種課題25%、授業への取り組み25%。

テキスト

シェイクスピア著、松岡和子訳『夏の夜の夢・間違いの喜劇』(ちくま文庫) (ISBN 978-4-480-03304-8) その他、作品の翻訳、参考図書については、授業中に、随時指示する。

